＜卒寿を祝う会＞の挨拶（１９年６月１６日・KSP ホール）

今日は私の卒寿を祝うため、日曜日にもかかわらず大勢お集まりいただき大変恐縮に存じ、また大変光栄に思っております。只今は過分なご紹介と「KSP 名誉フェロー」の盾をいただき感激しております。この６月７日、私は間違いなく９０回目の誕生日を迎えました。計算してみると今日までで３２、８６０日生きてきたことになります。１００歳まではあと３６５０日です。数字だけ見ると大した事なさそうですが、これからは胸突き八丁だろうと思っています。

９０年を振り返って一番強く感じることは、長洲知事や本日ご来席の皆さん始め、実に大勢の人たちに支えられ、導かれ、ご恩を蒙ってきたということです。それがなければ今日の私はなかったわけで、改めて皆様のご厚情に厚くお礼申し上げます。

とりわけ、私の人生に決定的な影響を与えた方々を忘れることができません。
一人は、米国のジャーナリスト、エドガー・スノーさんです。私は敗戦の時１６歳の軍国主義少年でしたが、たまたま上京した折、上野の焼け跡、闇市の小さな本屋で、彼の書いた『中国の赤い星』という本を偶然買ったのです。徹夜で読み上げた私は、それまで教え込まれた中国のイメージと全く違う中国の姿に強い衝撃を受け、軍国主義の金縛りが一気に解けていく気がしました。

そして兄たち二人は中国と戦ったけれど、弟である私は中国と仲良くする仕事をしようと決心したのです。この「赤い匪賊」たちが５億の民を率いるようになったら、中国は変わり、アジアが変わり、世界が変わるだろうと、大きな夢と希望に胸を膨らませたのです。しかし当時の中国は日本や西洋列強の侵略で非常に貧しい、遅れた国でした。果たして立ち直れるのかという疑問もありました。

それから７０年、今や中国は米国と並ぶ大国となり、トランプが仕掛けた貿易戦争にも一歩も引かぬ構えです。IMF の発表によると、昨年の ppp ベースでの GDP ランキングで、１位が中国の２５兆２０００億ドル、２位が米国の２０．３兆ドルで、ノーベル賞学者のスティグリッツさんは「再逆転はありえない」と言っています。有名な投資家ジム・ロジャーズさんも「２１世紀は中国の時代、アジアの時代になる」ことは間違いないといっています。１６歳の少年の日に抱いた夢と希望が実現しつつあることに感動を覚えています。私の世界認識、歴史認識を根本から変えてくれたスノーさんに心から感謝しています。

それから私の人生の出発点を作ってくれた 2 人の先生がいます。小学校と旧制中学の先

生で、進学率数%の貧しい時代，私を上級学校に進学させるよう父親を説得しに来てくれました。父は当時二人の息子を戦争にとられ、若くして妻を失い、苦しかったと思いますが、何とか黙認してくれました。
この２人の教師の説得と父の黙認がなければ、これまた今日の私はなかったわけで、本当にありがたいことだと思っています。

次に、去年亡くなった妻とその母親です。敗戦の一年前、４人の子供を連れて満州から引き揚げてきましたが、満州国官吏だった父親は、戦後シベリアに抑留され、一時は処刑されたとのうわさも入り、大変でした。やむなく農業を始めたこの家族を助けるため、農作業の手伝いに通いました。この時、田んぼにお茶やおにぎりを運んでくれたのが、小学生だった名和美子さんです。

美子さんは茨大を出て教師になりましたが、たくさんの縁談があったようです。しかし母親が頑として賛成せず「そのうち孝雄君が必ず現れる。あの子はただものじゃない。必ずひとかどの人物になる。お前の婿には孝雄君がいい」と言っていたようです。
１３～４歳のころから私を見込み、将来を嘱望し、一人娘を嫁がせてくれた母親、その助言を受け入れて私の妻になってくれた美子さんに、卒寿を迎えた今改めて心からの感謝を捧げたいと思っています。

最後に、私の人生の後半を、がらりと変えてしまった人がいます。いうまでもなく長洲さんです。４５歳から６１歳まで長洲知事の補佐官として働いた１６年間、さらに、日本初の SP である KSP を軌道に乗せよ、との命を受けて派遣された KSP の８年間、計２４年間は私の人生のハイライトでした。貧乏研究者だった私を見込み、次々に重責を与えてくれた長洲さんに改めて深い感謝を捧げたいと思います。

この間の仕事上の思い出は尽きませんが、ここでは長洲さんとの人間的触れ合いについて少し話してみたいと思います。私は長洲さんの人格、人間性は３つの柱からできていると思います。西欧的知性、東洋的人生観、下町庶民の情感の３つです。長洲さんに話したら「よく分析してくれたね」と言って賛成してくれました。

またある時、長洲さんの雅号「一沙鴎」が話題になった時、その出典である杜甫の「旅夜書懐」をいきなり諳んじだしたんです。「細草微風の岸　危檣独夜の舟　星は平野に垂れて闊く　月は大江に湧いて流る・・・」。そこで私がすかさず、中国音であとをつけたんです。「シーツァオウエイフォンアン　ウエイチアンドウイエジョウ　シンチョエイピンイエクオ　ユエヨンダージアンリウ・・・」。すると長洲さんが、目を丸くして、「いいねぇ、きもちがすっきり、のびやかになる。ぜひ別の詩でもやろう」と言っ

て、杜甫の「春望」を所望されました。「国破れて山河在り・・・」という詩ですね。

このとき私は思いました。長洲さんは知事を２０年、学部長３期もやって、いわば権力者の時間が長かったのですが、権力者ぶったところはなかった。つまり「１羽の鴎」を雅号にしたように、いつも自らを漂泊する旅人に擬していたのではないかと思います、ここに長洲さんの魅力、人間としての強さの秘密があるように思いました。

それからもう一つ、これはあまり人前では話したことがないのですが、すべて時効ですのでお話します。つまり、逆に私が、長洲さんの運命を変えようとして失敗した話です。

ある日、滋賀県知事の武村さんから電話があり、大事な話があるので、すぐ来てくれという。新幹線に飛び乗って知事室に行くと、「ここではまずいから」と言って知事公舎の応接間に入り、開口一番「長洲新党を作りたい、７人の知事とは話がついている。長洲さんの決断を待つだけだ」という話だった。私は飛んで帰って長洲さんに決断を迫ったのですが、長洲さんはしばらく考えてから「もう中央の話はいいよ。僕は神奈川で知事職に徹するよ」と言われました。

これにはもう一つの背景がありました。当時（８２～３）、労働戦線統一への動きも絡んで、政治的シンボルが欲しいということで「長洲待望論」が強かったんです。歴史に「もしも」はないのですが、あの時もし長洲さんが決断し、労働界の動きと知事グループの動きを統合出来たら、大きなインパクトが生まれ、日本の政治構造を少なくとも欧州型に変えることができたのではないかと思います。最近の政治の閉塞状況を見るたび、このことを思い出しています。

しかし長洲さんの中央進出が実現していたら神奈川県政はどうなっていたか、おそらくKSP もできなかったかもしれない。逆に全国にいくつもの SP ができて、日本をイノベーション大国にしていたかもしれない。政治の出処進退は本当に難しい。

長洲時代の仕事の面で、１つだけ取り上げるとすれば KSP です。企画から建設まで参画し、さらに初代の常勤社長として悪戦苦闘の末、日本初の SP の経営を軌道に乗せ、黒字経営にしたうえ納税企業にしたこと、それが新聞に出た朝、長洲さんから電話があり「久保君、有難う。御苦労さまでした」と言われたときは、声が詰まってしまいました。さらにここを拠点に ASPA を創設し、SP 運動とネットワーク化をアジア全体に広げる土台を作ったことです。自治体改革論で有名で、自治体批判も厳しかった松下圭一さん見学に来て「KSP は長洲県政の最高傑作だよ。ハードとソフトの見事な結合だ。歴史に残るよ」と言われたことが忘れられません。

KSP 退任の挨拶に伺ったとき高橋市長の突然の要請で川崎市産業振興財団に移り、川崎の皆さんとともに川崎臨海部の再活性化、イノベーションシティ川崎づくりに参加したことも貴重な体験でした。韓国京畿道との友好提携、神奈川県と遼寧省との友好提携にも参画し、県日中友好協会の会長を１２年勤め、中国から「中日友好貢献者賞」を受賞したこともうれしい思い出です。

今日の卒寿の会が私の古戦場ともいうべき KSP で開かれたことは、私にとってこの上ない記念になります。皆様の深いご配慮に心から感謝を申し上げ、お礼のご挨拶といたします。有難うございました。